

プログラム説明書

団体名	特定非営利活動法人アーキペラゴ		
プログラム名	海ごみの動物への影響を体験しよう		
概要	野生生物の網への絡まりや誤食を疑似体験。瀬戸内海から世界へ繋がる影響を学び、解決策を主体的に考案します。		
ねらい	生き物への影響を自分事として捉え、海の繋がりを実感。身近な生活から地球環境を守るための主体的で前向きな行動力を育みます。		
対象者	小学3年～中学生	人数	40人程度まで
実施場所	・教室	実施時間	45分程度
学校の準備物	パソコンでスライドを投影するためのプロジェクター、もしくはモニター	実施団体の準備物	体験道具、スライド、標本箱
安全上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体験者の数に応じて、適正な講師の数を配置する。 ・担当者と事前に綿密な打ち合わせを行う。 ・体験実施時には、慣れた講師が対応する。 		
雨天時の対応	屋内での実施		
アピールポイント	海ごみ削減に現場で取り組む経験豊富な講師が担当することでよりリアルな話ができ、香川県の海ごみについて学ぶ事で、海ごみを自分たちの身近な問題として捉える事ができます。		

プログラムの進め方

【導入】

- ・対象者に海ごみについて知っていることを聞く。
- ・香川県の海ごみの現状や実際の海岸の様子をスライドを見ながら説明する。



・スライドを見ながら現状を知る

- ・実際の海ごみを「海ごみ標本箱」を見ながら、自分たちの生活の中から海ごみが出ていることを理解してもらう。



・海ごみ標本箱

【展開】

- ・自分たちが出した海ごみが他の生き物に与える影響をスライドを見ながら説明。



・からまりの体験

- ・実際に海の生き物が直面する海ごみの影響を体験する
 - ①「からまり」の体験。漁網よって身動きができなくなったり、口にプラスチックの輪っかがはまってしまった

ことで、食べ物が食べられなかったりする状況を体験する。

- ②「誤食」の体験。餌と間違えて海ごみを食べてしまう生き物の状態を、発泡スチロールと、ポップコーンを使って遊びながら体験する。

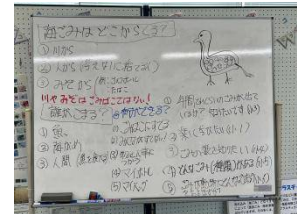
- ・海ごみ問題＝プラスチックごみ問題であることを理解してもらう。



・誤食の体験

【まとめ】

- ・人の生活と海ごみの関係について考えてもらう。
- ・海ごみを削減するために自分でできるアクションを考え、みんなで共有する。



・意見の共有